

今後二十年間に見える皆既日蝕について

1934年(昭和9年)2月14日 皆既線は南洋ボルネオ、セレベス、ジロロ諸島を経て、我が委任統治領の海上をぬけ、北太平洋に終る。其の線はトルク群島中のロソプ、オロルク諸島を通過する。最大皆既時間2分5秒、相対原理研究のため太陽附近の星野極めて良好、5.5と6.1との兩星が太陽の兩側に對立し、相対効果を最大限に表はす。尙ほ、其他測定し得る星は、

太陽中心より $\frac{1}{2}^{\circ}$ 以内に	1個
〃 $\frac{1}{2}^{\circ}$ 乃至 1° に	7〃
〃 1° 〃 $1\frac{1}{2}^{\circ}$ 〃	12〃
〃 $1\frac{1}{2}^{\circ}$ 〃 2° 〃	18〃
〃 2° 〃 $2\frac{1}{2}^{\circ}$ 〃	40〃

星の分布は極めて一様である。

1936年(昭和11年)6月19日 黒海よりシベリヤを横斷して我が北海道の北邊を過り、北太平洋上に終る。皆既時間はトムスクで2分27秒、高度 53° 。相對律星野は不良、H.D. 39970 といふ 5.8^m 級星が 1° 以上の北東にある。

1937年(昭和12年)6月8日 皆既線は太平洋上ニウギニアの東サントクルズ島附近から東へ大洋を渡り、南米ペルーに終る。皆既時間は最大7分7秒に達するけれど、觀測に適する島は無い。(ハワイの南 15° ばかりの所に Sarah Anne といふ島が丁度この皆既線上に當つてゐるのだが、近年此の島は消失したと言はれてゐる。) 星野も不良で、太陽の西 1° の點に H.D. 32641 といふ 6.5 級のものが一つあるのみ。 1° 乃至 2° に4星があるが皆西側である。

1940年(昭和15年)10月1日 南米の北部から南アフリカに至る。皆既時間は5分40秒、星野は淋しい。6—7級星が若干太陽中心から $1\frac{1}{2}^{\circ}$ 以内にあるのみ。

1941年(昭和16年)9月21日 裏海から中央アジアと支那中央とを横斷し、漢口、雲州を經、沖繩の那覇附近を通過し、硫黃群島を通過して、洋上に終るもので、皆既時間は3分20秒。觀測地には恵まれ、星野も悪くはない。

太陽の邊緣から $1'$ 以内に 6.5 級星が 1 つ、或は之は太陽のためにかくれるかも知れない。尚ほ、太陽の北 1° ばかりの所に 7 級星がある。

1943年(昭和18年)2月4日 北太平洋で、ほどアリウシヤン列島の圓弧に沿ふ。皆既時間は 2 分 30 秒、太陽の高度は 30° に達しないので、観測は困難だらう。

1944年(昭和19年)1月25日 メキシコの西沖から始まり、ペルー、ブラジル(アマゾン流域)を経、太西洋を横斷し、アフリカのサハラ沙漠に終る。皆既時間は 4 分 5 秒。太陽中心から $26'$ の點に 6.2—6.7 級の二重星があるし、又、もつと外側に 5^m 星が二つあるが、全體として星野は一樣に分布してゐない。

1945年(昭和20年)7月9日 北米アイダホ州から始まり、カナダを縦斷し、ホドソン灣を中斷し、グリーンランドの東端を越えて太西洋に入り、スカンデナヤ半島をこえ、露國レニングラード附近を経て、中央アジアに終る。皆既時間は 1 分 5 秒。太陽中心から $50'$ 以内に 6 級星があるが、他は何れも微光であるし、時間も短かい。

1947年(昭和22年)5月20日 南米チリ、ボリヰヤ、ブラジルを経て、太西洋を越え、アフリカの大部を横斷するもので、皆既時間は 5 分 10 秒。太陽中心から $1\frac{1}{2}^\circ$ に以内 5.5^m と 6.0^m との兩星があるが、何れも夫れ々々第 3 第 4 象限にある。次は太陽の北 $2\frac{1}{4}^\circ$ に一星あるのみ。

1948年(昭和23年)11月1日 アフリカの中央部に始まり、マダガスカル島の北端をかすめて、インド洋中に行く。皆既時間は最大 1 分 55 秒、太陽の邊緣に極めて近く 7.7^m 級星が一つある外、他にも星は多いが、時間が短かいのと、地理的に不便なので、大きい期待は出来ない。

1952年(昭和27年)2月25日 アフリカ西岸の海中に始まり、同大陸を横斷して、紅海中央を横ぎり、ベルシヤ、トルケスタンを経て、シベリヤのバイカル湖附近に終る。皆既時間最大 3 分。太陽の南 $1\frac{3}{4}^\circ$ に 4.9^m 級の H.D. 213320 といふ星がある外、頗る淋しい星野である。〔P. A. S. P. より〕